

みずほマーケット・トピック(2023 年 2 月 10 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、パウエルFRB議長の発言を受け下落した。週初6日、「政府が日銀次期総裁に關し雨宮氏に打診する案を調整」との観測報道を背景とした円売りを受け、132.06円でオープンしたドル/円は、仲値にかけて132円台半ばに続伸も、その後は失速し132円を割り込んだ。海外時間は米金利上昇を受け一時週高値となる132.90円をつけた。7日、ドル/円は円買い相場の中、132円台前半でじり安推移。海外時間は、パウエル議長が「デシインフレのプロセスが始まった」などと発言し、市場が警戒していたよりもタカ派ではなかったことから米金利低下とともに一時130.50円付近に急落した。8日、ドル/円は材料難の中、131円を挟んだレンジ推移。海外時間は、ウィリアムズ・NY連銀総裁によるタカ派な発言を背景に、米金利上昇を受け131.50円付近に上昇した。9日、ドル/円は日銀新総裁に關する観測報道で上下も、円買い相場の中、131円台前半でじり安推移。海外時間は、米金利低下を背景に一時週安値となる130.34円に続落するも、引けにかけては軟調な米国債入札を受け、米金利反転とともに131.50円付近へ値を戻した。本日のドル/円は、引き続き131円台半ばでの取引となっている。
- 今週のユーロ/ドルは、前週に公表された米1月雇用統計の余波が残る中、週初に下落し、その後は方向感なく推移した。週初6日、1.0789でオープンしたユーロ/ドルは、前週からのドル買い相場が継続し、1.07台前半まで続落。7日、ユーロ/ドルはパウエル議長の発言を警戒した米金利上昇を受け、一時週安値となる1.067に下落も長続きせず、後半にかけて1.07台前半を回復した。8日、ユーロ/ドルは独金利上昇を受けて1.07台後半に上昇するも、NY時間にはFRB高官の発言が材料視され、米金利上昇を背景に1.07台前半に往って来い。9日、ユーロ/ドルは欧米金利差縮小を背景に1.08を目指す展開となるも、NY時間にはドル買い相場の中、1.07台前半に下落した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.07台前半での取引となっている。

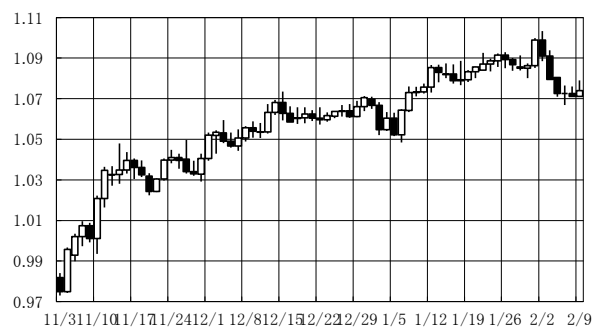
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		2/3(Fri)	2/6(Mon)	2/7(Tue)	2/8(Wed)	2/9(Thu)	
ドル/円	東京9:00	128.78	132.06	132.62	131.08	131.40	
	High	131.20	132.90	132.71	131.55	131.83	
	Low	128.34	131.52	130.47	130.60	130.34	
	NY 17:00	131.20	132.63	131.09	131.46	131.53	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0905	1.0789	1.0730	1.0731	1.0717	
	High	1.0940	1.0800	1.0767	1.0760	1.0791	
	Low	1.0793	1.0709	1.0670	1.0710	1.0707	
	NY 17:00	1.0795	1.0726	1.0729	1.0714	1.0739	
ユーロ/円	東京9:00	140.43	142.45	142.24	140.59	140.82	
	High	142.32	142.95	142.30	141.02	141.42	
	Low	139.98	142.02	140.29	140.31	140.50	
	NY 17:00	141.65	142.28	140.63	140.81	141.28	
日経平均株価		27,509.46	27,693.65	27,685.47	27,606.46	27,584.35	
TOPIX		1,970.26	1,979.22	1,983.40	1,983.97	1,985.00	
NYダウ工業株30種平均		33,926.01	33,891.02	34,156.69	33,949.01	33,699.88	
NASDAQ		12,006.96	11,887.45	12,113.79	11,910.52	11,789.58	
日本10年債		0.48%	0.49%	0.49%	0.49%	0.49%	
米国10年債		3.52%	3.64%	3.68%	3.61%	3.66%	
原油価格(WTI)		73.39	74.11	77.14	78.47	78.06	
金(NY)		1,876.60	1,879.50	1,884.80	1,890.70	1,878.50	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、14日(火)に1月消費者物価指数(CPI)の公表を予定している。12月の結果は+6.5%(前年比、以下同様)と11月の+7.1%から減速。市場予想と一致も、2021年10月以降で最も低い伸びとなった。また、食料品とエネルギー価格を除いたコアベースでは+5.7%と11月の+6.0%から減速し、市場予想と一致、2021年12月以来の低水準となった。資源価格下落や供給制約緩和を背景に非コア価格(食料・エネルギー)やコア財価格のピークアウトが顕著な一方、コアサービス価格の騰勢鈍化は確認できていない。パウエルFRB議長は「財価格の減速は好ましいが、サービス価格上昇は不安」と述べ、居住費除くサービス価格の騰勢、賃金上昇圧力に懸念を示した。住宅価格下落により居住費インフレは今後減速が見込まれる中、居住費除くサービス価格の動向には特に注目が集まる。なお、ブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+6.2%、コアベースで+5.4%と見込んでいる。
- 本邦では、14日(火)に10～12月期GDP(速報)が公表予定。7～9月期の結果(確報)は前期比▲0.2%、前期比年率▲0.8%と2期ぶりのマイナス成長に転落。マイナス成長の要因は主に2点あり、1点目はサービス輸入の大幅増を受けた純輸出のマイナス寄与、2点目は4～6月期の結果が上方修正されたことによるベース効果だ。つまり、一過性かつテクニカルな要因もあり、実態以上に結果が悪く見えた側面もあった。10～12月期GDPの結果に関しては、依然、個人消費は冴えないものの、インバウンド消費やコロナ後のリベンジ消費が見込めることから、先行きに関して過度に悲観する向きは少ない。なお、ブルームバーグの事前予想では、前期比で+0.5%、前期比年率で+1.8%と見込んでいる。

	本 邦	海 外
2月10日(金)	・1月国内企業物価指数	・英10～12月期GDP(速報) ・独12月経常収支 ・米2月ミシガン大学消費者マインド(速報)
13日(月)	—————	—————
14日(火)	・10～12月期GDP(速報) ・12月鉱工業生産(確報)	・英12月雇用統計 ・ユーロ圏10～12月期GDP(改定値) ・米1月消費者物価指数
15日(水)	—————	・ユーロ圏12月貿易収支 ・ユーロ圏12月鉱工業生産 ・米1月小売売上高 ・米1月鉱工業生産
16日(木)	・1月貿易収支 ・12月コア機械受注	・米1月生産者物価指数
17日(金)	—————	・ユーロ圏12月経常収支 ・米1月輸出/輸入物価指数

【当面の主要行事日程(2023年3月～)】

日銀金融政策決定会合(3月9～10日、4月27～28日、6月15～16日)
ECB政策理事会(3月16日、5月4日、6月15日)
FOMC(3月21～22日、5月2～3日、6月13～14日)

市場営業部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2023年2月9日	ユーロ圏、インフレ期待の現状～pivotは支持されず～
2023年2月8日	2022年の国際収支統計を受けて～意外な伏兵～
2023年2月7日	日本はドイツに追い抜かれてしまうのか～何が違うのか～
2023年2月6日	IMF見通し上昇修正と為替見通しの関係について
2023年2月3日	週末版(ECB政策理事会を終えて～顕著に改善するユーロ相場の取引環境～)
2023年2月2日	FOMCを終えて～ドル/円見通しに影響なし～
2023年1月30日	23年、最初の1か月を終えて～言うほど進まないドル安～
2023年1月27日	週末版(当面のECBの金融政策運営の考え方～「追い風」を得てタカ派に持続性～)
2023年1月25日	神風に救われたユーロ圏経済～最悪からの復活?～
2023年1月24日	「投機の円買い」vs「実需の円売り」の行方
2023年1月23日	日銀タカ派とFRBハト派の併存は可能なのか?
2023年1月20日	週末版(史上最大の貿易赤字をどう捉えるか～輸入増加の次は輸出減少に?～)
2023年1月19日	日銀政策決定会合を受けて～現状維持とも言い切れず～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年12月分)
2023年1月18日	懸念されるユーロ圏のインフレ～コアは加速中～
2023年1月16日	日銀は本当に動くのか?～当面の展開を整理～
2023年1月13日	週末版(依然残る日本の閉鎖性～入国規制とインバウンド需要～)
2023年1月10日	米12月雇用統計を受けて～無理筋なハト派解釈～
2023年1月6日	週末版
2023年1月5日	FOMC議事要旨を受けて～23年利下げへの支持はゼロ～
2023年1月4日	2023年展望の「重要な前提」と「パス」のおさらい
2022年12月23日	週末版(史上最大の円安の年を終えて～円高を「押し目」とする視座～)
2022年12月21日	日銀の政策修正に関する論点整理～日銀Pivot～
2022年12月20日	米インフレ急減速を当然視する風潮は大丈夫なのか
2022年12月19日	円安で注目したい対内直接投資のポテンシャル
2022年12月16日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「ターミナルレート3%」では不十分というメッセージ～)
2022年12月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年11月分)
	FOMCを終えて～PCEピークアウトと利上げ停止時期～
2022年12月14日	米11月CPIを受けて～円相場に対する見方は不変～
2022年12月13日	23年、ドル/円相場のメインシナリオとリスクの要約
2022年12月12日	インバウンド復活は2023年春以降のテーマに
2022年12月9日	週末版
2022年12月6日	ECB政策理事会プレビュー～2つの注目点～
2022年12月5日	「日本人の円売り」は一過性の懸念で終わるのか?
2022年12月2日	週末版(135円台で考える「安い日本」～名目円高では解決しない根深い問題～)
2022年12月1日	まだ警戒が必要なユーロ圏のインフレ情勢
2022年11月29日	ECB議事要旨を受けて～開き始めたFRBとの差～
2022年11月28日	FOMC議事要旨を受けて～利上げ幅縮小に新味なし～
2022年11月25日	週末版
2022年11月24日	投機ポジションで見るドル・円・ユーロの概況
2022年11月22日	消費増税以上の威力を示した40年ぶりのCPI
2022年11月21日	最高難度の局面に挑むECB～多様な「不況下」の物価高～
2022年11月18日	週末版(本邦7～9月期GDPを受けて～購買力の悪化は悲惨な状況～)
2022年11月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年10月分)
2022年11月16日	FRBは今、何を考えているか?～蘇る平均インフレ目標～
2022年11月15日	実質ベースで考えるドル/円相場のオーバーシュート
2022年11月14日	ユーロ相場の現状と展望～金利・需給面の整理～
2022年11月11日	週末版(2022年度上半期の経常収支状況を受けて～所得収支の還流が最後の手札～)
2022年11月10日	金利面から見たドル/円相場の現状と展望
2022年11月9日	ユーロ圏経済の近況について～スタグフレーションの淵～
2022年11月4日	週末版
2022年10月28日	週末版(ECB政策理事会を終えて～政策間の整合性が問われる状況に～)
2022年10月27日	ECB政策理事会プレビュー～再投資の行方～
2022年10月25日	製造業の国内回帰報道をどう理解するか?
2022年10月24日	圧倒的なファンダメンタルズ～円高は押し目という新常識～
2022年10月21日	週末版(半分になった円の価値～150円到達で何を思うか～)
2022年10月19日	天然ガス価格上限設定について～史上最も厳しい冬～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年9月分)
2022年10月18日	通貨高競争の足音～G20議長総括から何を讀むか～
2022年10月17日	トラス英政権の軌道修正～機能した市場のアラーム～
2022年10月14日	週末版
2022年10月13日	FOMC議事要旨を受けて～2023年も高金利～
2022年10月12日	「季調済み経常収支、2か月連続で赤字」の意味
2022年10月11日	年初来ピークに達したイタリアの対独スプレッド
2022年10月7日	週末版(国連の正論をどう受け止めるか～とはいえ利上げ停止は不可能～)
2022年10月6日	水際対策完全撤廃の前に論点整理
2022年10月4日	散見され始めたドル暴落説を検証する
2022年10月3日	「世界第2位の対外純債務国」の命運は政治次第
2022年9月30日	週末版
2022年9月27日	伊メロニニ新政権、現実路線への修正は可能なのか?
2022年9月26日	英トラス新政権、「成長に賭ける」という危険な賭け
2022年9月22日	週末版(FOMCを終えて～「春になれば円安は止まる」の真実味～)
2022年9月20日	EUは冬を乗り切れるのか～結局、節電頼み～
2022年9月16日	週末版
2022年9月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年8月分)
	円安抑止としての日本版HIAの可能性
2022年9月13日	鎖国政策終了とその後の課題
2022年9月12日	動き出す家計部門の外貨運用～金融教育の先に～
2022年9月9日	週末版(ECB政策理事会を終えて～スタグフレーションとの闘いに挑むECB～)
2022年9月7日	金利差が本当にテーマになるのはこれから
2022年9月6日	ノルドストリーム1の再開延期とユーロ安
2022年9月5日	円安更新はどこまで続くのか～140円台突破を受けて～
2022年9月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～50bpか75bpか～)
2022年8月29日	ジャクソンホール経済シンポジウムを受けて
2022年8月26日	週末版(劣化する欧州経済の現状～読めないエネルギー供給とドイツのリセッションリスク～)
2022年8月24日	水際措置の緩和の評価～問題は上限ではない～
2022年8月23日	パリティ割れと欧州のインフレ動向について
2022年8月22日	顕著になる鎖国政策の副作用
2022年8月19日	週末版
2022年8月18日	過去最大を更新し続ける貿易赤字
2022年8月17日	生産者物価指数(PPI)と交易条件と円相場